

国有林を活用した「下呂の森を巡るツアー」の開催 ～地域連携の視点から～

岐阜森林管理署

主任地域林政調整官

○ 河原 誠二

岐阜森林管理署

業務グループ 森林ふれあい担当

平枋 潤己

はじめに

下呂市みどりの祭実行委員会（以下：実行委員会）と連携し第 39 回全国育樹祭下呂市サテライト行事（サテライト行事）のプレイベントとして開催した「下呂の森を巡るツアー」（以下：ツアー）を地域連携の視点から報告します。

1. 開催までの経緯

(1) 連携に至った背景

実行委員会ではサテライト行事の企画を検討するワーキンググループに岐阜森林管理署（以下：岐阜署）も参加し、企画内容について検討していた時に「標高差が岐阜県で最も大きい下呂市には多様な森林があり、その魅力を知ってもらうために国有林の協力が必要」という意見が出されました。

また、中部森林管理局管内では平成 27 年度に岐阜県で全国育樹祭、平成 28 年度には長野県、平成 29 年度には富山県で全国植樹祭が開催されることから、岐阜署では国有林を活用して国民に対し森林の重要性や魅力を伝える絶好の機会と捉えました。

実行委員会と岐阜署の目的が森林の魅力を伝えることで一致し、連携してツアーをサテライト行事プレイベントとして企画・実行することとしました。

(2) 連携の構築

岐阜署は多種・多様な森林管理を行ってきた経験が豊富な森林技術者を有する一方で一般向けのイベントを開催するノウハウが不足している、実行委員会では一般向けのイベントを開催するノウハウを有しているが森林技術者が少ないのが現状であるのに加え、サテライト行事全体の企画で事務局の人員が不足していました。

イベント開催ノウハウの不足と人員の不足というお互いの弱点を補う形で連携することとしました。

また、ツアーの企画をより充実させるため下呂市内の森林に精通している

NPO 法人森のなりわい研究所の伊藤代表に助言・指導を得ることとしました。

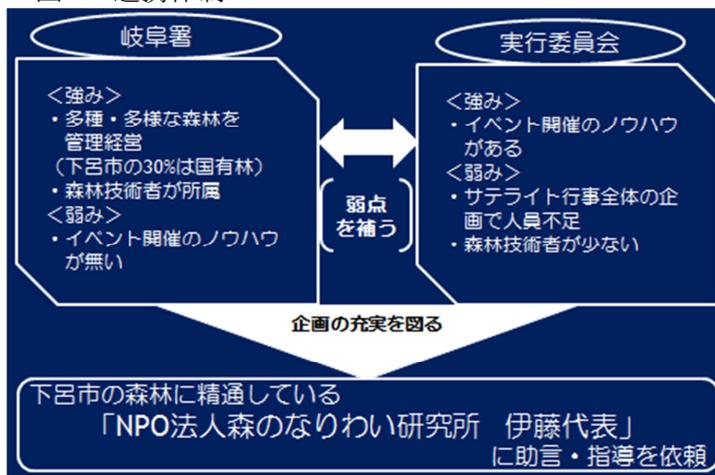
図 1 下呂市みどりの祭実行委員会の概要

下呂市林務課に事務局を設置し「第 57 回全国植樹祭」を契機として、下呂市民及び岐阜県民が「植えて育てる」「伐って利用する」という持続可能な森林づくりを実行するために組織されている。

< 構成員 >

- 会長 下呂市長
- 副会長 下呂市農林部長
- 顧問 岐阜県下呂農林事務所長
- 委員 下呂市内の行政機関の長（岐阜署含む）
自治会関係、森林・林業関係者

図 2 連携体制



2. 企画

(1) 目的

下呂市は標高 220m から 3,052.6m(下呂市最高点)と岐阜県で最も標高差があることから、「多種・多様な森林を有している」という魅力を伝えること、「岐阜森林管理署(国有林)」を広く下呂市民等に知ってもらう 2 点としました。

(2) 場所の選定

2(1)で示したように下呂市は標高差が大きいことから、暖温帯、中間温帯、冷温帯、亜高山帯、高山帯と 5 種類の気候帯の内、暖温帯の特徴的な照葉樹林を観察できる適当な場所が無いこと、高山帯は森林が成立しないことから除外し、中間温帯、冷温帯、亜高山帯の特徴的な森林を選ぶことにしました。

また、下呂市は益田林業地として知られたヒノキの産地であることから、地域の産業を知ってもらう観点から人工林も含めることにして、天然林を 3 カ所、人工林を 1 カ所の計 4 カ所を選定しました。

なお、開催場所は一般の方が場所を理解できるようなネーミングとするよう配慮しました。

<開催箇所の森林の特徴と選定理由>

○中間温帯針広混交林

下呂市中南部は暖温帯と冷温帯に移行する中間温帯に位置し、景勝地として知られる中山七里の飛騨川左岸の小川長洞国有林に中間温帯の特徴的な森林が残されていること、様々な森林技術研修が行われていることから安全対策が講じられ、参加者の安全確保ができることから選定しました。

○冷温帯針広混交林

下呂市内の冷温帯ではヒノキ・ミズナラ混交林といった温帯性針葉樹と広葉樹が混交することが特徴とされています。

その特徴を有した森林があり、様々な生涯学習の場として活用され知名度があり、一般の方が訪れやすい場所である岐阜大学位山演習林を選定しました。

○亜高山帯針葉樹林

濁河温泉、御岳登山口があり下呂市民に知られている地域にあり、自然休養林に指定され散策路が整備されている御岳自然休養林を選定しました。

○人工林

下呂市内、中部森林管理局が管理する森林で最も林齢が高く、一般の方が見学できるよう整備されていて、知名度が高い赤沼田天保林を選定しました。

図 3 開催位置図



(3) 開催プログラムの概要

開催場所が 4 カ所となり移動に時間が有することから別表 1 のとおり 3 回に分けて開催することにしました。

第 1 回「中山七里の森」は一般車両の通行規制をしている林道を走行すること、第 2 回「赤沼田天保林」と「濁河の森」は移動距離が長いことから小型借上バスでの移動することにし、バスの定

員である 20 名を各回の参加定員として開催することにしました。

別表 1 開催日程

	開催日	開催場所	森林のタイプ
第 1 回	8 月 22 日 (土)	中山七里の森 (小川長洞国有林)	中間温帯針広混交林
第 2 回	8 月 29 日 (土)	赤沼田天保林 (赤沼田国有林)	ヒノキ人工林
		濁河の森 (御岳自然休養林)	亜高山帯針葉樹林
第 3 回	9 月 5 日 (土)	岐阜大学位山演習林 (民有林)	冷温帯針広混交林

(4) 広報

プログラムの概要が決まったので、連携先である実行委員会や NPO 法人森のなりわい研究所に協力要請を行い下記のメディア等を活用し積極的に行いました。

< 広報の種類 >

- 下呂市森林管理委員会発行の「下呂の森通信」
「広報げろ」への折込で下呂市内全世帯へ配布
- 「さるぼぼクラブ」(フリーペーパー)
ひだ未来の森づくりネットワークの掲載枠で開催案内を依頼
- 中部森林管理局ホームページ
イベント案内での告知
- ぎふ森林づくりサポートセンターホームページ
- 「恵みの森と全国育樹祭」で開催案内配布と告知
8 月 9 日に開催されたシンポジウムでの広報

3. 開催結果

(1) 参加人数

各回の定員を 20 名として公募を行いました。定員に達したのが第 2 回にのみとなり広報のあり方に課題を残しました。

なお、第 1 回と第 2 回は雨天となったため欠席者が多くなりました。

別表 2 参加状況一覧表

	申込者数 (A)	出席者数 (B)	欠席者数 (C)	定員 (D)	定員の差 (D) - (A)
第 1 回「中山七里の森」	8	6	2	20	12
第 2 回「赤沼田天保林」と「濁河の森」	20	17	3	20	0
第 3 回「岐阜大学位山演習林」	9	8	1	20	11
計	37	31	6	60	23

(2) ツアーの内容

冒頭に森のなりわい研究所から下呂市は標高差が大きく暖温帯から高山帯までの気候帯があり様々なタイプの森林がある等、下呂市の森林の特徴について説明を行った後に、第1回と第2回は森のなりわい研究所による案内で岐阜県はサポートする形で開催しました。

第2回は岐阜県が案内を行い、森のなりわい研究所がサポートする形として開催しました。

森林を案内する時には、参加者に関心を持ってもらえるよう地域の植物利用等の話を交えながら案内する森林の特徴について説明を行いました。

図4 ツアーの概要図

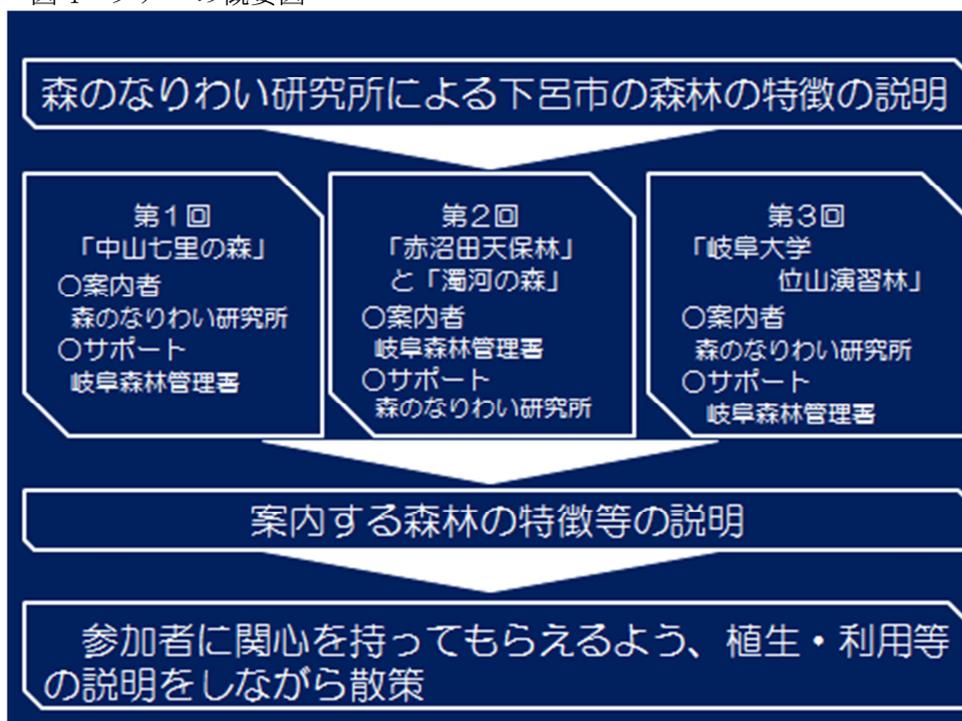


図5 第1回「中山七里の森」 コナラの巨木の説明



図6 第2回「赤沼田天保林」と「濁河の森」



森の巨人たち100選 天保の大ヒノキの説明



亜高山帯針葉樹林での説明（濁河の森）

図7 第3回「岐阜大学位山演習林」 アスナロ(ヒバ)の説明



(3) アンケート調査結果等から考察

ツアーの参加者に図8のとおり広報効果の検証、ツアーの満足度、ツアーの継続の意向と、参加申込から参加者の属性について検証を行いました。

参加申込者37人の内、下呂市居住者は70%(26人)と最も多くなりました。(図9) 性別は男性51%(19人)、女性が49%(18人)とほぼ同数となり性差はありませんでした。(図10)

年代別では60代と70代が全体の54%を占め参加申込者の多くが中高年となりました。(図11)

広報については、広報げろに折り込まれ全世帯に配布した下呂市森林管理委員会(以下:管理委員会)発行の「下呂の森通信」でツアーを知った参加者49%と最も多い結果となりました。(図12)

実行委員会と下呂市森林管理委員会の事務局は下呂市林務課であったため、「下呂の森通信」で開催案内を掲載することができ下呂市内全世帯に配布できたことが、実行委員会と連携してツアーを開催したこと最大の成果であったことが広報の結果から分かりました。(図13)

満足度については、大いに満足、満足と答えた参加者の合計が94%となり、参加者からツアーの企画に対し高い評価を得ることができたのはNPO法人森のなりわい研究所から企画・実行に関して助言・指導を得た結果と考えています。

ツアーの継続についての問いに対しては93%の参加者が参加したいと答えたことからツアーを継続する必要があることが認識できました。(図14)

図8 アンケート内容

「下呂の森を巡るツアー」第1回中山七里の森参加者アンケート

「下呂の森を巡るツアー」第1回中山七里の森に参加していただきありがとうございます。今後、下呂市みどりの祭実行委員会及び岐阜森林管理署で開催するイベント等の企画の参考としたいと考えていますのでアンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

- 1 広報
あなたは、「下呂の森を巡るツアー」の開催を何で知りましたか。あてはまる項目に○をつけてください。

* 下呂の森通信(広報折込)	* さるぼぼクラブ
* 中部森林管理局ホームページ	* ぎふ森林づくりサポートセンター
* 恵みの森と全国育樹祭	* その他()
- 2 「下呂の森を巡るツアー」の3つのツアーの内、中山七里の森を選ばれた理由について記入してください。
- 3 第1回中山七里の森に参加された満足度についてお伺いします

* おおおいに満足	* 満足	* どちらとも言えない	* 不満	* おおおいに不満
-----------	------	-------------	------	-----------
- 4 今後も下呂市内の森を観察するツアーに参加したいですか

* 参加したい	* 参加したくない	* どちらともいえない
---------	-----------	-------------
- 5 4で参加したいを選択した方にお伺いします。下呂市内で訪ねてみたいと考えている森林について教えてください。

図9 参加申込者の居住地

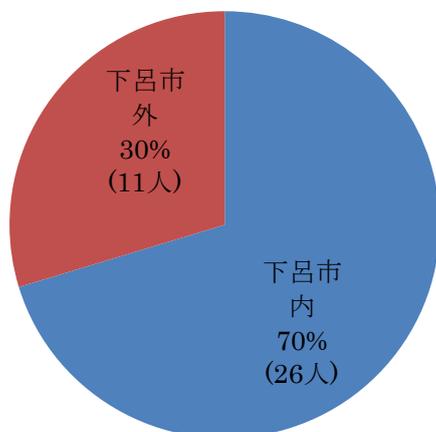
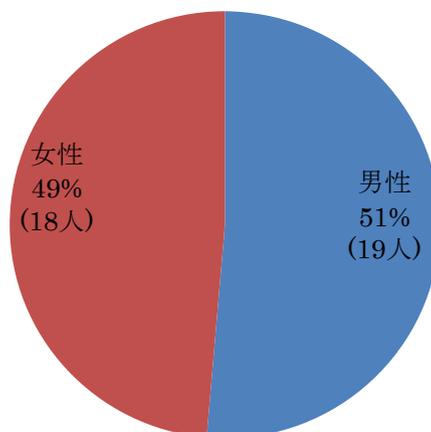
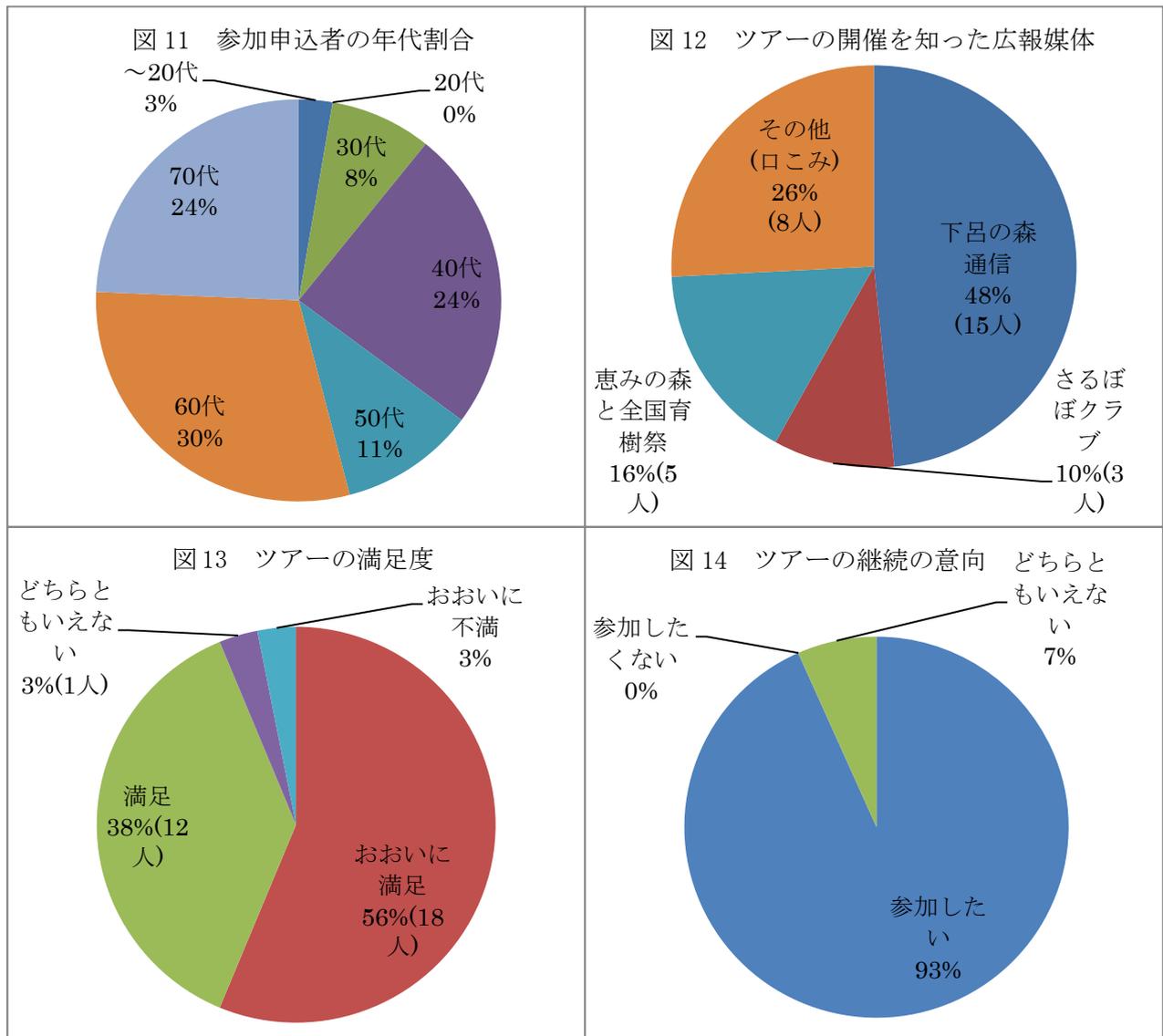


図10 参加申込者の性別割合





おわりに

実行委員会と連携したことにより、3(3)で述べたとおり広報において成果を得ることができた以外に、今まで関係が薄かった下呂市内の森林・林業関係者と協力関係が構築することができました。

今後は、ツアーの開催に限らず地域貢献を目指し様々な取組を行っていかねばならないと考えています。